

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は  ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の学習成果を測定するための基準・指数の開発に向けた検討を行う。	→学習成果測定の基準・指数の開発の状況	C	C			
2. 学生が自身の学習成果を認識・測定できるような方法を検討する。	→学習成果の認識・測定方法の検討状況	C	C			
3. 卒業生の就職先および卒業生の法学部に対する評価を教育にフィードバックする仕組みを検討する。	→就職先、卒業生に対する法学部教育に関するアンケートの実施	C	C			
4. 学士学位の授与基準・手続について検討する。	→学士学位の授与基準・手続の検討状況	C	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 学習成果の評価指標については、検討中ではあるが未だ達成には時間が掛かると思われる。学生の自己評価および卒業後の評価のための調査については、その方法を検討中である。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 (説明) 学位授与基準については、たたき台とすべき原案を学部長室において作成した。次期学部執行部に早急に検討すべき事項として引き継いだので、次年度の早いうちに、学部において検討し、公表される予定である。
その他	

《評価指標データ》

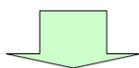
- 各学部における学生の進路状況
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
- 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
- KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
- 3年卒業の適用者数
- ジョイント・ディグリーの授与者数
- 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
☆小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

○適切な「目標」が設定されています。大項目6の中で最も対応の困難な中項目ですが、「目標」に沿って今後の工夫と努力が望まれます。

##### 【学内委員】

○学位授与の基準・手続きについて検討が開始されたことは評価できます。

○学習成果の評価指標は検討中で達成には時間がかかることですが、その進捗状況や時間がかかる理由等について、「改善すべき事項」欄に具体的に記述する必要があります。

○学生の自己評価及び卒業後の評価については「調査中」とありますが、調査の目的や方法を具体的に記述する必要があります。この調査は研究の前提となる実情把握のためのものと推測されますが、もしそうであると仮定するならば、調査結果を踏まえながら方策を検討することとなり、具体化な方向性が出されるまでに相当時間を要するものと思われます。いずれにしろ、進捗評価が「C」の事項については、「改善すべき事項」欄に具体的に記述することが望まれます。

○学習成果の評価指標を検討中であることは理解できますし、そのことは大変評価できますが、現状における成果をまったく評価できないことはないでしょうから、要素などを参考にした説明が望まれます。このことは、小項目6.4.2についても同様です。大学基準協会の基盤評価も参考にしてください。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

##### ○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

##### ○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

#### ○小項目6.4.1

##### ＜現状の説明＞

学習成果の測定は、基本的には成績によって行われている。それらの総体として学位授与が行われている。それらを越えた学習成果の測定や評価指標については、定評がある方法が得られておらず、模索の状況にある。就職状況についての把握は行われモニターされている。卒業生の評価については、資源投下をすればアンケートなどが可能であるが、そのコストベネフィットを踏まえた妥当性の評価について合意が得られていない。

##### 「改善すべき事項」

学生の学習成果の認識・測定方法の検討が十分に行われていない。卒業後の評価についてのフィードバックが行われていない。

##### 「改善方策」

学習成果の測定については、2011年度中に学部としてIRプログラムに参加することになっており、その測定指標を利用することが一つの改善方策となる。卒業生の評価については、資源的条件を勘案しつつ、検討したい。

★

#### ○小項目6.4.2

＜現状の説明＞学位授与方針（全学方針に基づき2011年度策定）に基づき、現状においてカリキュラムに定められた所定の単位を取得することが学位授与の基準となる。この基本的な基準の変更は現時点では想定していない。

##### 「改善すべき事項」

カリキュラムに基づく単位取得が卒業判定基準になるので、2012年度カリキュラム改革によって求められる学力が達成されているかについて図る試みを準備する必要がある。

##### 「改善方策」

2012年度からのカリキュラム改訂による学習成果の測定の方法について、IR実施の成果も見つつ、検討を行い実施成果のモニターを準備していく。なお、新カリキュラムについては5年の実施後、その効果について検討し改正すべき点は改正する予定となっている。